

明治国際医療大学だより

News from Meiji University of Integrative Medicine

Vol.7

大学情報誌

新入生オリエンテーション

4月5日(金)、入学式を終えたばかりの新入生177人と在 student で、3学部合同によるオリエンテーションが行われました。まずはドッジボール大会。3学部混合チームで最初は緊張していた新入生たちでしたが、すぐに打ち解け、あちらこちらから賑やかな歓声が上がっていました。続いて〇×クイズでは、在 student が新入生に大学のことを知ってもらおうと、学生生活に関するクイズを考え、こちらも大いに盛り上がりました。お昼のバーベキューは青空の下、みんなで楽しく食事をし、たくさんの笑顔を見ることができました。今回のオリエンテーションは、新入生にとって、楽しい大学生活の最初の1歩となりました。



かいたう あい
皆藤 愛子さん

FM OSAKAで放送開始 フューチャーカレッジ ～ラジオの中の学校～

7月より本学院が提供するラジオプログラム「フューチャーカレッジ ～ラジオの中の学校～」をスタートしました。テレビでおなじみのアナウンサー皆藤愛子さんを番組ナビゲーターとして迎え、様々な分野の著名人や本学関係者をゲストに招き、ラジオを通じ授業を行います。下記6局で同日に放送される他、「radiko.jp」を通じ、PCやスマートフォンから聴取することができます。また、過去の放送が、音声・映像・写真でご覧いただける特設サイトもご利用ください。

各局とも毎週土曜日に放送

- FM OSAKA 24:00～24:30
- FM AICHI 19:00～19:30
- e-radio (FM滋賀) 20:00～20:30
- エフエム岡山 24:00～24:30
- K-mix 24:00～24:30
- 広島FM 24:00～24:30

特設サイト <http://blog.fmosaka.net/f-college/>

新入生を対象とした「防災・安全講習会」を実施

園部消防署から講師の先生を迎え、災害発生時に学生さんの生命・健康が守れるよう、日々の防災意識を高めることを目的として安全講習会を実施しました。講習内容は、①消防署隊員による講義②消火器の使用訓練③煙体験④スローダン(緩降機)の使用説明で、概ね全員の新生が入参加し、有意義で身になる講習会となりました。

開催日: 6月20日(木)ー看護学部 / 6月25日(木)ー鍼灸学部、保健医療学部



9 > 10 > 11 > 12 > 1 > 2 > 3

September October November December January February March

- ポルトガル海外研修
- オープンキャンパス
- 日本伝統鍼灸学会
- 日本生殖看護学会
- 創立記念日(3日)
- 京都学生祭典
- たには祭(学園祭)
- 時代祭

- 学内軟式野球大会
- 日本柔道整復接骨医学学会学術大会
- GUNT M学術大会
- 就職説明会
- 冬期休暇
- 学年末試験
- 冬期休暇
- 学術集談会
- はり師・きゅう師国家試験
- 看護師・保健師国家試験
- 病院奨学金説明会
- 救命救急法講習会
- 卒業式
- 柔道整復師国家試験
- オープンキャンパス

編集後記

4月3日の入学式から早4ヶ月、前期日程も最後の締めくくり、期末試験を残すのみ。初めての一人暮らし、初めて聞く内容の講義、これまでと違った授業スタイル等々、当初戸惑いの見られた新入生諸君も今やそれらの環境にも慣れ、のびのびとキャンパスライフを楽しんでくれているようです。ここにその様子的一端をお届けします。さて、梅雨も去り、青空に入道雲が浮かぶ夏の到来、学生諸君にとってはストレスの多かった授業から解放され自由が待っている夏休み。大いにリラックス楽しんで、後期に備えて英気を養って下さい。但し、海・山での事故そして熱中症には十分気をつけて下さい。特に熱中症は、若いから、という油断は禁物です。9月からの新学期にはリフレッシュした元気な皆さんに会えることを期待しています。

(文責: 松浦忠夫)

当大学だよりに関するご意見ご要望および記事のご投稿は、大学事務局 教学課までお願いします。

「新学期」を迎えて

学長 岩井 直躬



例年より早い桜の開花の下、昨年より20名多い計177名の新入生を迎えたキャンパスには生き生きとした雰囲気

がみなぎっています。新しく動き出す季節には、明日に向けて新たなエネルギーが必要です。本学に入学された皆さんに共通した志望動機は、卒業後、医療人として活躍することだと思います。一方、本学の建学精神は「和の精神を真髄となし、東西両医学を有機的に関連づけて、社会および国民の医療に貢献できる真の医療人を育成する。」としています。すなわち、将来、医療人として活躍するにはチーム医療に必要な「和の精神」と、東西両医学の知識をこれからしっかりと身につけていただく必要があります。さらに本学は、グローバルに活躍できる人材育成にも力を注いでいます。米国、そして韓国、ポルトガルから多くの研究者や学生が本学へ研修・見学に訪れます。また、本学からポルトガルにある欧州最大のスポーツクラブ・ベンフィカへ海外実習に行きます。このような時、外国の研究者や学生と英語で話すことなく意見交換ができることを私たちは目指しています。その為にはこれらの機会を積極的にとらえ、そして先ずは慣れることが必要です。新入生はもちろんのこと、在 student の皆さんの柔軟な頭脳と新鮮なエネルギーで東西両医学の知識を吸収し、卒業の暁には国家資格を取得して、グローバルにそしてローカルに医療人として大いに活躍されることを期待します。



Orientation
オリエンテーション

Entrance ceremony
入学式

入学式

4月3日、平成25年度入学式が執り行われ、201名の入学生が本学の一員として迎えられました。式典には南丹市長様をはじめ、多くのご来賓の方々にご出席いただき、心強いエールをいただきました。また、新入生を代表し鍼灸学部の石橋舞さんが宣誓を行い、学生生活が実りあるものになるよう努力することを力強く誓いました。

今回は リハビリテーション科学ユニットを紹介します。



リハビリテーション科学 松本和久 准教授

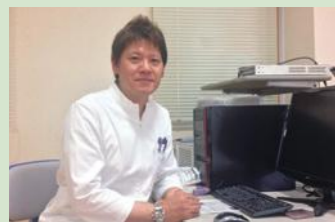
リハビリテーション科学ユニットは、教育分野でリハビリテーションの授業と実習を担当しています。医療分野では、附属病院の3階に隣接する広いリハビリテーションセンターで、外来と入院の患者さまのリハビリテーションを行っています。また、京都在宅リハビリテーション研究会を主催し、京都府における地域リハビリテーション研究センターとしての役割を担っています。リハビリテーションは患者さまの疾患や障害だけでなく、患者さまの価値観や生活環境、ご家族の思いなどを総合して実施します。それは東洋医学と同じです。私たちは『病気を診るのではなく、生活する人を診ること』を心がけ、日々の臨床を行っています。

「段差」と「バリアフリー」を経験できる環境

大学の周辺地域には、『段差』の多い日本の古い家屋が多く残っていることから、リハビリテーションセンターには他の施設には見られないユニークな環境があります。日本の古い家屋構造にある石畳のアプローチや土間を再現した『段差』を多く含む環境と、段差のない『バリアフリー』の環境です。在宅に復帰するためには段差を克服する必要があります。しかし克服できない場合には、段差をなくす住宅改修が必要となります。いずれも、実際に行って評価することで、患者さまに適したリハビリテーションとアドバイスをしています。



コメント



学生の皆さんには「知っていること」と「出来ること」が違うことを肌で感じて欲しいと思っています。授業では知識を学びます。知識はもちろん重要ですが、医療現場で使えなければ意味がありません。ただ知っているだけでなく、出来るようになるためにはどうしたらいいのかを常に考え、実践できる医療人となってもらえるよう、学生さんに接しています。

「クラスアドバイザーのご紹介」

1年生



和辻 直 (学年アドバイザー)

本学は自然に囲まれ、学習や課外活動するのに非常に良い環境です。1年生では東洋医学と西洋医学の基礎をしっかりと学んでいただきたいと思っています。



水沼 国男 (Aクラスアドバイザー)

東洋医学の基礎となる経絡経穴学等を担当しています。覚えることが中心になる科目なので、自分で限界を決めないで、頑張ってください。



谷口 授 (Aクラスアドバイザー)

Aクラスアドバイザーの谷口授です。1年生の科目では鍼技術学を担当しています。皆さんと一緒に楽しく学習できたらと思っています！



はり技術・きゅう技術実習



竹田 太郎 (Bクラスアドバイザー)

教員としては中堅ですが、明るく楽しいキャンパスライフを“共に過ごせる仲間”という存在でいたいと思います。よろしくお願ひします。



木村 啓作 (Bクラスアドバイザー)

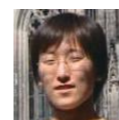
幼少期からサッカーをしてきたこともあり、現在はスポーツ領域の科目を担当しています。クラブ活動を通して学生さんと積極的に向き合いたいと思います。

2年生



角谷 英治 (学年・Aクラスアドバイザー)

2年生の学年アドバイザー兼の2年A組の学生アドバイザー。愛知県出身。少林寺拳法部と一緒に汗を流しています。50歳を過ぎ、学生さんに対しても親の目線になっていますが、時には厳しさも必要だと実感しています。



河合 裕子 (Aクラスアドバイザー)

ヒトが苦手なのであまり外を出歩かない医療情報学教室の河合です。大学生活を通じて職業意識を育む環境づくりを念頭に、学生さんと共に成長中です。



新原 寿志 (Bクラスアドバイザー)

私は広島県福山市の出身で本学8期卒です。大学院修了後、本学に就職しました。趣味はフットサルで、毎週、学生さん達と一緒に汗をかいています。



日野 こころ (Bクラスアドバイザー)

「楽しんで」をモットーに学生さんと和気藹々、時には厳しく☆激しく・・・貴重な大学生活をより充実させ多くの学びを重ねていただきたいと思います。



経絡経穴学実習



3年生



今井 賢治 (学年アドバイザー)

3年生は国家試験を控えた大事な学年ですので、クラスアドバイザーとともに学生さん達の学業面のサポート体制を充実させ、有意義なキャンパスライフを過ごせるよう支援いたします。



福田 文彦 (Aクラスアドバイザー)

どんな人でも“こころの健康”は重要です。患者さんのこころの健康が理解できる鍼灸師を育てます。今年は、3年生の担任なので国家試験に向けて学生の心身の健康もサポートします。



関 真亮 (Aクラスアドバイザー)

治療では「指先の目」を重視しています。教育は「楽問」を信念に学生参加型の授業をしています。休日は地域のスポーツボランティアをしています。



附属鍼灸センター実習



鶴 浩幸 (Bクラスアドバイザー)

耳・眼・鼻などの症状に関する鍼灸治療や65歳以上の高齢者に対する鍼灸治療などを担当しています。授業では、できるだけ具体的な例をあげて分かりやすく説明することを心がけています。



谷口 博志 (Bクラスアドバイザー)

少林寺拳法四段の谷口博志です。鍼灸の治療効果を現代医学で説明できないものはないといった気概で、鍼灸が何故効くのか日々教育・研究をしています。

4年生



江川 雅人 (学年アドバイザー)

明治鍼灸大学を開学1期生で卒業しました。心優しく、情懐豊かで、社会適応力のある医療人の育成に力を注いでいます。4年生の学年アドバイザーとして良き相談役を目指します。



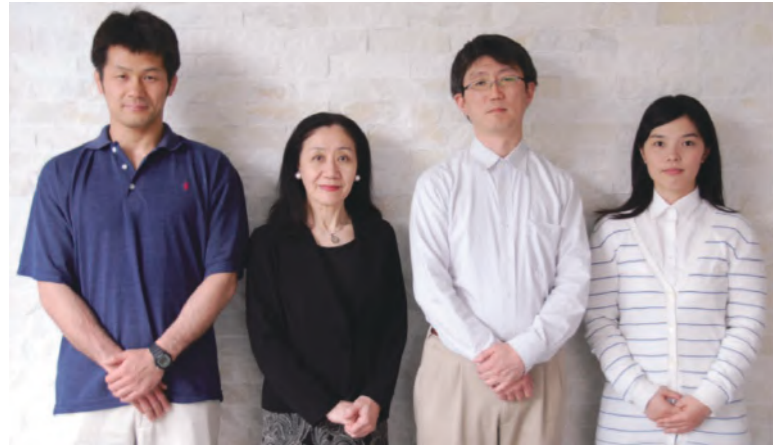
高齢者ケア実習



丹後実習(症例検討)

第7回 教室紹介

「スポーツ科学講座」



[左から順に]林弘典 教授、山崎立実 教授、林知也 教授(講座主任)、片岡裕恵 助教

〈スタッフが担当する主な授業科目〉

- 植物性人体機能学(保健医療学部)
- 柔道I・II・III(保健医療学部)
- 柔道整復学入門(保健医療学部)
- 卒業研究(保健医療学部)
- スポーツ生理学(鍼灸学部・保健医療学部)
- 人体の機能実習(鍼灸学部・保健医療学部)
- トレーニング実習(鍼灸学部・保健医療学部)
- 人体機能論I(看護学部)
- 柔道(看護学部)

講座の紹介

柔道整復の現場で扱う傷害(ケガ)の中には、スポーツ・運動によるものが多く含まれます。また、柔道整復師の行う柔道整復術は、柔術(柔道の原型となったもの)が基になっており、柔道整復とスポーツ・運動との関係は非常に深いといえます。さらに、スポーツ・運動の現場において、スポーツトレーナーとして多くの柔道整復師が活躍されています。この柔道整復にとって重要な関係にあるスポーツ・運動を、柔道整復からの切り口で、科学的根拠に基づき分析することが本講座の使命であると考えています。本講座には、スポーツ・運動を行うヒトを医学的に分析し研究するスタッフ(林知、片岡)と、柔道という競技そのものを科学的に分析し研究するスタッフ(山崎、林弘)がおり、研究成果を教育に反映できるよう、日々教育と研究に励んでいます。

教育

ヒトの病気やケガを理解するためには、まず正常な状態での、心臓や胃腸管などの内臓、筋肉、骨などの運動器の構造と機能を理解することが重要となってきます。本講座では本学生理学ユニットとともに、正常な状態での機能を学ぶ機能学(生理学)の教育を行っています。本学では、スポーツ・運動時の機能変化は、重要な事柄の1つですので、機能学の知識をベースにして、スポーツ・運動時の心臓・呼吸器系や筋肉・神経系の機能の変化を扱うスポーツ生理学の教育も行っています。また、柔道整復の教育では重要な科目の1つとして柔道があり、本講座では保健医療学部での柔道の教育も行っています。柔道とは、「心身の力を最も有効に利用する道」であることから、本学では、柔道の理念である「精力善用・自他共栄」の体得と実践を目指し、礼法から始まり、受身、投技、固技などを教授しています。高段者のスタッフが教授しますので、初心者でも安心して授業を受けられ、卒業までにはかなりのレベルまで技術を磨くことができます。柔道は礼節を重んじるスポーツであることから、看護学部でも1年前から選択科目として柔道の教育を行っており、人気のある科目の1つとなっています。



主な研究内容

以下のような主な研究テーマで各スタッフが研究を行っています。卒業研究とも連携し、学部の4年生もスタッフの指導の下、研究を進めています。

- 運動時に生じる酸化ストレスの性差について(林 知也)
- 柔道と柔道整復術(山崎 立実)
- 柔道の審判について(林 弘典)
- 暑熱環境での身体反応と運動パフォーマンスについて(片岡 裕恵)
- テーピングなどの固定による運動時生体機能の変化(平成25年度卒業研究テーマ)

「禁煙活動ボランティア」

2年生学年アドバイザー 母性・小児看護学講座 矢野恵子

昨年度に引き続き、2年生生活安全系の学生を中心に喫煙防止活動を行っています。この取り組みをはじめから、喫煙問題に関心を向けてくれる学生や先生が増えてきました。これからも、校内喫煙者ゼロを目指した活動を、粘り強く続けていきたいと考えています。保護者の皆様、教職員の皆様、ぜひ学生のこうした活動をご支持いただき、清潔で健康的なキャンパス環境づくりにご協力ください。

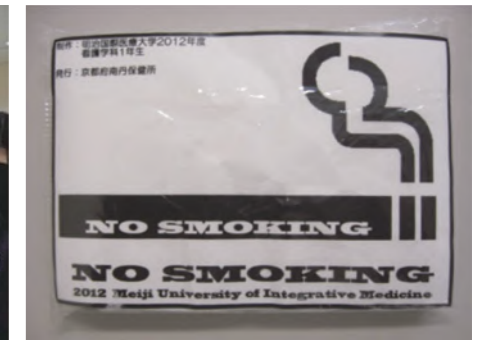
学内での啓発活動「明るいキャンパスづくりへ、ここを一つに」▶



学生自作のポスター「喫煙ゼロを願って」



活動前の打合せ「さあ、ガンパロー」



南丹市成人式で本学学生が配付した禁煙キャンペーンティッシュ

国家試験全員合格を目指して

大学は、学生個々が自らのキャリアをデザインし、その実現を目指して行動するところですが、看護学部では、その土台となる国家試験合格をサポートするために、1年生から4年生までを通した国家試験受験対策を実施しています。国家試験の全国合格率は例年90%前後であり、集中した受験対策を実施しなければ全員合格は難しいのが現状です。そのために、まずは学生の団結力とやる気を引き出し、そのうえで学生主体の勉強会や教員による国家試験対策補講、さらには学外から専門講師を招いてのセミナー開催など、さまざまな方策を学生と協議しながら取り組んでいます。夢の実現に向かって学生、教員が一丸となり努力しているところですが、保護者の皆様におかれましても、ぜひご協力下さいませよう、よろしくお願い申し上げます。

看護学部国家試験対策指導委員会 地域保健看護学講座 清野たか枝



演習室や国試対策自習室をつかって、学生による自主学習会をやっています。





患者給食に「にぎり寿司」を提供

附属病院初の試みに看護学部生もボランティアとして参加

2月28日、附属病院において、患者給食に「にぎり寿司」を提供するという本院初の試みが行われました。テイルームに寿司屋台を設置し、4名の寿司職人が目の前で寿司をにぎり、約30名の患者さんに提供しました。入院生活の中ではありえないメニューを提供することで、患者さんに楽しいひと時を送って欲しいと、院内の栄養管理委員会とスマイルハート会(院内病棟関係職員他有志による患者サービス・入院患者さんが楽しく過ごせる催しを提供する会)とが合同で実施しました。本看護学部の学生4名もボランティアとして参加し、食事の補助や移動のお手伝い等患者さんをサポート。自分達の将来の姿を見ずえながら、有意義な時間を過ごしました。食事後、患者さん達からは「ありがとう。」「おいしかった。」との言葉とともに素敵な笑顔を見ることができました。



～参加学生のコメント～

毎回すてきな笑顔にであえるようにと思いながら、スケジュールが合えばボランティアに参加しています。今回はお寿司の提供で、みんなおいしいと言いながら食事されていて、とても良い活動でした。「いつもより食べられた」と言っていた方もおられたので、患者さんにとっても回復に向かって一歩前進できたのではないかと思います。

看護学部 3年生 大隈侑子さん

病院での今回のような活動に興味があり、毎月スケジュールがあればボランティアに参加しています。入院生活の中でも、今回のような試みによって患者さんの笑顔を見ることができました。にぎやかな雰囲気活気にあふれており、良かったです。

看護学部 3年 福岡真理子さん

第16回 日吉ダムマラソン大会 参加ランナーをサポート!



4月21日(日)、京都府南丹市日吉町の府民の森ひよしを発着点に「第16回日吉ダムマラソン」が開催されました。保健医療学部柔道整復学科の学生達が教員とともに、参加ランナーのサポートを目的としたスポーツケア活動を行いました。マラソンコースは、3km、10km、ハーフマラソンの各コースに分かれており、男女14部門で競技が行われました。今回の参加ランナーの数は、例年どおり約2500名となり、南丹市だけでなく県外からも多数の参加者が訪れました。当日は、晴れと雨が頻繁に入れ替わる不順な天候の中、「ウォーミングアップジェル」の塗布、「アイシング」および「ストレッチング指導」には延べ200名以上の参加ランナーが訪れ、好評を得ました。学生達は、次々と訪れるランナーに対して、大学での授業や実習で学んだ知識や技術を発揮させ、ケア活動を行いました。柔道整復学科では、本大会以外にも地域スポーツを支援する活動として、丹波ロードレースや亀岡社会人サッカーリーグ(南丹市、亀岡市)などにおいて、本学で学習した知識・技術を活かしたスポーツケア活動を実践しております。



第64回 京都学生柔道大会優勝

5月3日、柔道部が、京都産業大学第二体育館において開催された第64回京都学生柔道大会(男子2部)に出場し、20年ぶり4回目の優勝を果たしました。柔道部では、柔道の強い弱いに関わらず、文武両道を motto に一緒に頑張る仲間を待っています。入学金や授業料の優遇措置のある柔道部特別奨学金制度を利用して柔道部にぜひ入学してください(部員16名)。

5月1日京都新聞夕刊 「@キャンパス」本学学生の取材記事が掲載!



2月4日～15日に韓国ソウルの漢陽大学から5名の医学生が本学、附属鍼灸センター、附属統合医療センター(京都市西京区)を訪れ、研修を受けられました。この研修には、鍼灸学部の有志学生達が密着し、英語でコミュニケーションをとりながら、「統合医療」や「日本と韓国の医療の違い」など様々なディスカッションを繰り広げ、貴重な国際交流となりました。この度の国際交流は、京都新聞の「@キャンパス」の取材も兼ねて行われ、5月1日(火)夕刊に掲載されました。※「@キャンパス」は、京都と滋賀の大学生が、自らテーマを決めて、大学や街の話題、社会の問題、地域での活動などを取材し、リポートするコーナーです。



図書館からのお知らせ

図書館では新たな試みとして京都府立医科大学附属図書館をはじめとする医療系大学に多く配架されているマンガ本を導入しました。今まで図書館を利用していなかった学生さんも来館し、自習したり休憩時にマンガを読んだりする姿が見られるようになりました。また、学生目線からの意見を少しでも取り入れようと学生スタッフ制度を設け、学生からの生の声を反映させ図書館の利用環境の整備に協力を得ています。

課外活動 Pickup

茶道部

一年生が入学し、早2ヶ月がすぎました。今回、新に5人の新入部員を迎え、現在13名で活動中の茶道部に取材をさせていただきました。茶道部では、毎週火、水、木の3日間、放課後に集まって練習を行っています。普段はお手前の練習を中心に活動していますが、オープンキャンパスで野点を行ったり、年1回、京都御所で秋季茶会を開催しています。茶道に興味をお持ちのみなさん、ぜひ遊びに来てください。おいしいお茶とお菓子を用意してお待ちしています。

Q. 茶道(部活動)を通して学んだこと、茶道部のどのような活動が楽しいですか?

A. 茶道の稽古を通して、堅苦しいと思っていた作法にもきちんと理由があることを知りました。秋季茶会の準備を通して、お客さんに一服お茶を差し上げるためにいるいるな準備をしなければならぬことを学び、また、その準備をみんなで協力して行い作り上げていくことは、とても楽しいことです。

Q. 茶道部の自慢はなんですか?

A. 手作りにこだわり、お茶碗のひとつひとつから自分たちで作っていること。また、普段の生活でも役に立つ作法が身につく、着物、袴の着付けができるようになりました!

